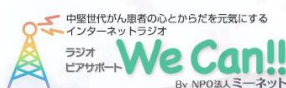


これだけは知っておきたい 自分のがんのこと③

名古屋市立大学病院 化学療法部
小松 弘和



自身のがんを知る

17

- 罹患したがんの状況を知る
- 自身の体力を知る
- 主治医からの説明を100%理解する
- 必要感じれば、セカンドオピニオン

ご自身のがんがどのような状況かを知る 18 —主治医から—最低限理解したいポイント

1 病名: 肺がん

この4点で治療法の概要が
決まってきます

2 病理組織型(生検結果):
非小細胞がん、小細胞がん

3 病変部位、臨床病期(転移の有無):
病変部位: 肺、縦隔
I期～IV期: 限局期～進展期

4 遺伝子異常:
EGFR変異、ALK発現

体力(臓器機能)評価

19

- 心(心エコー、心電図)
- 肺(肺機能、動脈血ガス)
- 肝(肝機能採血)
- 腎(採血・検尿)
- 感染症(肝炎ウイルス等)
- 止血能(採血)
- 年齢

治療、特に化学療法に耐えられるかを客観的に評価する。
臓器機能の低下がある場合は、治療の減量、変更がある。

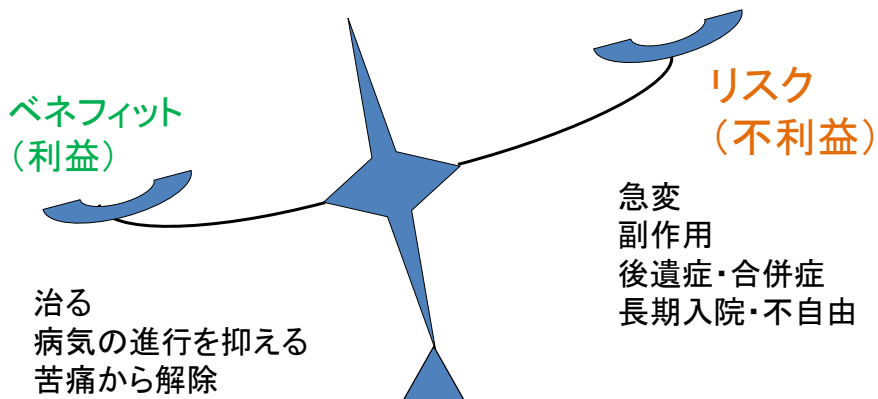
ファーストオピニオン: 主治医

20

インフォームド・コンセント (Informed Consent, IC) 説明と同意

- 病名、組織診断、病期
- 全身(臓器機能)評価
- 推奨される治療法と治療目的
 - 治癒、共存、症状緩和
- 副作用、後遺症
- 治療サイクル、治療回数、治療期間
- 日常生活制限や影響、外来か入院か
- 仕事ができるか
- 医療費はどうか(外来と入院それぞれ)
- 標準療法か、臨床試験か
- 利益と不利益の秤

あらゆる治療は効果と副作用の 21 バランスによって決定される



ベネフィットとリスクの兼ね合いと、
患者さん個人の希望と合わせ治療法が選択

目的(地)を知る・決める 22

- 治療効果
 - 治癒(根治)
 - 予後(生存期間)を伸ばす
 - 症状を軽減する
- 生活
 - 仕事を達成する
 - 趣味・旅行
- 副作用の種類と程度
 - 脱毛、嘔気、倦怠感...
- 後遺症
- 治療期間
- 生活制限
- 入院か外来か
- 重篤な合併症の発生率

23 これからの病状と生活がイメージできるか

